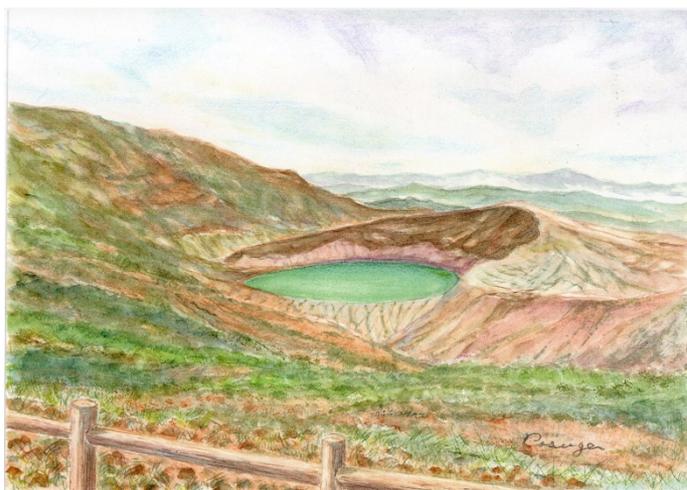


2023 第 62 号

千葉支部だより



J・A・C



令和 5 年 7 月発行

発行元 (公社) 日本山岳会千葉支部

〒285-0837

佐倉市王子台 6-38-4

松田方

発行者 松田 宏也

編集者 小川 和敏

E-Mail cib@jac.or.jp

(表紙の絵)

蔵王五色岳 (お釜)

水彩画 小菅 一弘

山を学び、山と人に教わり、多くの仲間と楽しむクラブライフへ！

支部長 松田宏也

5月7日第16回通常総会で今年度の事業計画が承認され活動を開始することになった。毎年やることが増えて果たしてこなせるかが心配ではあるが、計画は手が届かないくらいがちょうど良い。できることばかりやっていると変化を感じることもなく、マンネリのライフを繰り返すばかりで面白くはないというものだ。

新しい取り組みとして山を学ぶための初級登山教室を4月から始めたが、教える側も基本を教えることの難しさを改めて実感するに違いない。山の知識、知恵の深さを知り実践することで生徒と講師、互いのステップアップにつながることを期待している。教室は会員・会友向けだが来年からは一般募集も始め公益事業のひとつとして取り組む予定だ。

また、確実な登山技術を取得したリーダーの養成やオリンピック種目となったスポーツクライミングを始めてみたい会員のための講習会受講の機会拡大として、および県内の山岳会との交流を促進するために、房総の山復興プロジェクトで登山道整備と一緒に汗を流した千葉県山岳・スポーツクライミング協会(略称:CMSCA=チムスカ、旧千葉県山岳

連盟である)に加盟を申請し承認された。CMSCAは県内の14の山岳会と競技クライミング専門の2団体で構成されている。交流することで山の世界が広がり新しい仲間が刺激を与えてくれるはずだ。

会員・会友への山行計画は支部だより、連絡事項は支部メールで案内しているが、これからは連絡事項が多くなるのが予想されるので支部からのメールは必ずチェックいただきたい。そして最新の支部活動については支部ホームページ(HP)に順次掲載しているのでこまめに見ていただくことをお勧めする。新着記事の新鮮さと読みやすさは好評である。登山道整備での助っ人石丸謙二郎さん(NHK山カフェのMC、世界の車窓のナレーター、俳優)の活躍や過去の支部だよりも創刊号から最新号まで掲載している。最近ではHPを見ての入会者が増えている。うれしい限りである。HPを立ち上げ後、新鮮な情報を届けようと山行やイベントニュースを即座に投稿を続けてきた三田、小川、松田の3人トリオの努力の甲斐があったものだ。是非、是非ご覧あれ！

● 会友の期限告知 ●

2023年4月からは全ての会友の期間は2年間とする。(現在入会している会友は2025年3月まで) 会友の期間終了後は会員もしくは準会員を選択してもらう。なお、70歳以上の会友は特別会友として対象外とする。また、70歳以下でも山岳活動の講習等ができる方も対象外とする。

(年齢は2025年3月末時点とする)

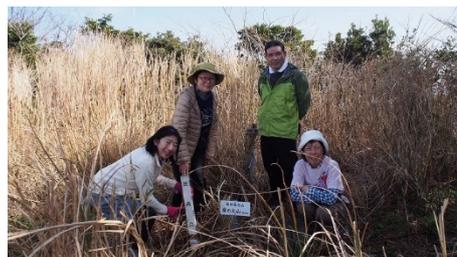
[目次]

・山行記録	p 2~3
房の大山とその周辺、行程圧縮の妙義山中間道	
・2023年度定期支部総会を開催 三田 博	p 3
・初級登山教室を開催中 受講生の感想	p 4
・第1回初級登山教室 東 蒼生	p 5
・第2回初級登山教室 加藤 剛	p 5
・山行記録	p 6~7
鎌倉殿と大仏さまと満開の桜、雪の赤岳日帰りチャレンジ、ミツバ岳 そしてエルドラドへ	
・登山道の整備 「房総の山復興プロジェクト」	p 7
・山行記録	p 8~9
真木川大ゴ沢、整備された房州アルプス、鹿島槍ヶ岳は五月晴れ	
・こんにちは 東 蒼生	p 9
・あの日の山 スマトラ島最高峰ケリンチ山 (3805m活火山) 大澤 雅彦	p 10
・自然学クラブ巡検—三舟山 三木 雄三	p 11
・山行記録	p 11~12
幻想の樂園・大台ヶ原そして大杉谷、思ったよりきつかった太郎山	
・ウォーキングクラブ活動報告 宇津木 仁典	p 12~13
「茂原地区」及び「白子地区」、目黒川沿いの桜を観ながら歴史の寺を、夢と魔法の町になった「浦安」	
・支部山行の予定	p 13~15
・事務局からのお知らせ	p 16

房の大山とその周辺

塩塚 生二

山行日/天候：3月4日土曜日（晴れ）
 参加者：L 今井貴朗、香高真奈美、國宗文、黒住清美、塩塚生二（5名）
 タイム：蘇我駅 7:30→坂田バス停登山口 9:10→房の大山山頂 10:10→坂田バス停登山口 11:15→洲崎灯台 12:00→洲崎神社 13:00→館山城 14:00→蘇我駅 15:50



蘇我駅で集合。今井さんの車に5人乗車して房の大山を目指し館山自動車道の富浦へ。潮止橋を渡って坂田バス停近くの房の大山登山口に駐車。9:10 登山スタート。細くて人の背丈の倍以上はある竹の密集する中へ入って、竹藪を抜けると棘のある木の中を通る。樹林帯の中を急登、急坂の登山道を一気に登り、緩やかな小峰をひと超えて最後の急坂を登りきると山頂に出る。

山頂は 193.3 mと低い山。展望台には Nikon の望遠鏡があり太平洋、東京湾、富士山、などが観える。爽快である。下山は現在工事中の公園を造っている山道を降りる。



時間があつたので、洲崎灯台、洲崎神社、館山城に行き帰宅する。大変楽しい山登りでした。



50歳未満は、千葉支部への入会金と年会費2年間分を免除します！

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めてみたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「お試し山行」に参加できます。日本山岳会への入会もご相談に乗ります。特に若い方が入会しやすいように、50歳未満の新入会員は入会金1,000円と2年間の年会費（正会員1,500円または会友3,000円）を免除します。

行程圧縮の妙義山中間道

坂上 光恵

山行日/天候 3月17日(曇り) 18日(雪のち雨)
 参加者:L小川和敏、三品京子、宮崎美智代、坂上光恵
 タイム:17日

6:30 西船橋駅発→9:10 妙義山下道の駅→9:45 奥の院・本殿→10:45 大の字(昼食) 11:15→12:45 第1見晴台から中間道登山口→13:20 中之嶽駐車場→石門コース→15:45 妙義山神社側登山口着→17:20 霧積温泉(泊)
 18日 帰宅



出かける2,3日前から天気予報があまり良くなく、雨具に防水スプレーをしっかりとつけてきたが、上信越道に入るところから空が明るくなってきた。妙義山に近づくと白雲山の岸壁に特徴

ある大の字が見えてくる。妙義神社の最上部の奥の院から右へ急斜面を登るが、木立ばかりで眺望はよくない。暫くすると鎖があり、やっと妙義山らしい感じになってきた。尾根に出るとすぐ左が大の字の岩峰。鎖を登るとちょうど大の字の裏側で眼下に冬から目覚めてきた村や



町が一望できる。

下りは第一見晴経由で下のほうの景色がよく見える。天候も安定し楽しいコースだった。と思っていたら、明日の天候が良くないということが分かり、予定していた明日のコースを今日行くことにする。いわゆる「石門めぐり」で奇岩と鎖場が連続のコースである。



車で中之嶽神社に移動し、まずは中之嶽神社本殿への階段142段を上り右に回るとつぎつぎと鎖場がある。石門への分岐を下ると中間道になり石門広場に出る。広場の上には、ネットで抑えてある大きな石が落ちてきそうに見え落ち着かない。岸壁や岩庇や鎖場が多く迫力がある。足場を確かめながら鎖場を下り、カニの横ばい・たてばりなど次々にこなし、下りたところに石門入り口と書いてあった。私たちはルートを反対にとって歩いていたのである。歩いてみた感想はどちらも大差ないのではないかと思います。平日で天気予報もあまり良くなかったせいか登山者に数人しか会わず、自分たちのペースで進み楽しむことができた。

翌朝起きると外は雪で真っ白、昨日登っておいて正解だった。

● 2023年度定期支部総会を開催 ●

千葉支部の2023年度定期総会が5月7日(日)、千葉市生涯学習センターで開催された。総会は会員27名、会友6名が出席した。(書面による議決権は39通)。



2022年度の事業報告、収支決算報告、監査報告と2023年度の事業計画、収支予算、役員選出などの議案が提出され、役員選出については一部修正の上、すべて承認された。当日ご出席、または議決権行使書をご提出いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

総会は1時間ほどで終了し、休憩時間を使ってスケッチアートクラブの絵画や写真同好会の作品を鑑賞した。

われるヤマビルは、吸血する量が意外に少ないことや対策用の虫除け薬の具体的な違いなどの話があった。ヤマビルが無害であるのに比べ、マダニは重篤な病気を発生させる原因になること、その対策方法な

どすぐに役立つ講演があった。

午後からは千葉中央の懐石料理「美弥和」に場所を変え、コロナ以降久しぶりに顔を合わせての懇親会が行われた。(三田 博)



● 初級登山教室を開催中 ●

千葉支部では令和5年度に会員・会友向けに初級登山教室を開催しています。今後の予定として、下記のカリキュラムと日程で行います。机上講習と実技がセットになっていますが、どちらかだけでも受講できます。また単発で受講することもできます。テキストには、JMSCA（日本山岳・スポーツクライミング協会）の「夏山リーダー」テキストを使用します。この機会にぜひ登山の知識を学んでください。

受講料無料ですが、テキスト代1,000円となります。その他にコピー代等の実費を徴収します。

【登山教室カリキュラムと日程】

※ 机上講習の場所は、津田沼のヨシキスポーツYYルーム。14:00～16:00です。

7月22日（土）机上④山の天気 / 7月23日（日）実技④奥多摩

9月2日（土）机上⑤山の病気と救急法 / 9月3日（日）実技⑤大菩薩嶺

9月30日（土）～10月1日（日）実技のみ⑥ 山で泊まる、食糧計画（場所未定・山小屋泊）

※ 問合せと申込み先：cib@jac.or.jp 事務局長・三田まで

【受講生の感想諸々】 — 5月20日机上及び21日の富山山行 —

- 机上では改めて登山のルールやマナーを学び、有意義でありました。印象に残ったことは、予習が大事であることです。日帰りの登山でも、3日かけて計画を立てると聞いたときは驚き、自分も、もう少し綿密に計画を立てねばと思いました。

実技の富山では、ズルズルの道とやせ尾根が重なり気を抜けない場面が多々ありましたが、全体的には楽しい登山となり良かったです。次は冬にでも訪れて富士山を見たいと思いました。（東 蒼生）

- 4月に会友として入会させて頂いて、初めての本格的な登山？を経験させて頂きました。70歳にして老後を有意義に過ごしたいと友人に誘われるまま軽い気持ちで山岳会に入会し、自分の体力の見極めも出来ていない中で今回の富山登山への参加となりました。登山教室での実技なので初級コースと勝手に思って軽い気持ちで参加希望を行いました。現地の看板で上級コースとの表示、内心不安を抱きながらの登山でした。ペース配分が良かったのか、道中、地図での位置確認、地形図と山道の状況の比較等を行う余裕ができたのが自信となりました。

登山終了後に今回のコースは？との問いに、松田さんより「初級の上」との回答があり、中級コースは良く考えての参加が必要というのが今回の教訓となりました。ただ今回の登山参加で自分の体力の見極めが出来た事を、今後の活動への基準としたいと思います。（齊藤和紀）

- 初めての待ち合わせでも皆さんあたたかく接して頂き安心しました。登頂前の説明や準備体操など個人でのハイキングではやらなかった事やってみてお～山岳部だと感じました！！そしてなによりコンパスと地図を使った現在地の確認方法や地形図の見方、針葉樹広葉樹の違いを説明してもらいましたが、これは分かり易くて勉強になりました。（実は以前雑誌を購入し読図 try しましたが理解出来ないでいたのです。）おそらくもう少し経験を積む必要がありますがこれは収穫の一つでした。なんか山岳部みたいな雰囲気です。看板を見たら上級コースだったので思わず笑ってしまいました。なんせ前日まで「ハイキングコース、靴はスニーカーでも問題無し。」と言われていたので、堅実なのかユルイのかどっちだーって感じでした。体力には少し自信もあり、靴もトレッキングシューズを履いていったのでコースを登る事自体に不安はありませんでした。が、前日までに降った雨の影響で滑る地面と両側が崖みたいなのを歩いた時は緊張もしました。お昼に食べたカップ麺は格別の味でした。

道中、様々な何気ない会話の中にも山菜や木の種類、食べられる木の実など、経験者の方と同行する事で、今まで気にしなかった景色にも興味を持つことが出来てとても良かったです。連絡したのが開催四日前だったので少し心配はありましたが、松田さんほかスタッフの皆さん、そして一緒に登ったメンバーにも恵まれ、とても楽しい経験になりました。このような人たちと出会えた事が一番の収穫でした。

確かに千葉支部は経験を問わず、まじめに楽しく登山に取り組みたい方に向いていると思いました。（先生の皆さん経験が有り過ぎて少しノリの部分もありますが笑）頼りになります。）今回の体験を通して、皆さんと様々な山に登ってみたいと感じた次第です。（成田知彦）

第1回初級登山教室

東 蒼生

4月22日(土) 机上 「山登りとは」

参加者: 小栗山大介 東蒼生

／スタッフ松田宏也 小川和敏 山口文嗣 (5名)

栄えある千葉支部第1回初級登山教室に参加した。1日目は机上講習。場所は津田沼のヨシキスポーツ様のYYルームである。講師は支部長の松田さん。まずは、自己紹介から始まった。この自己紹介で和やかな雰囲気になり、初参加の自分も落ち着くことができた。

次に、何故山に登るのか、魅力は何かを問われる。同じく講習生の小栗さんと答えていった。自然回帰、景色がいい、歴史を学べるなど、各々思いつく限り言葉にしていた。大体出揃ったところで支部長がまとめる。改めて山登りの魅力は深いと感じた。そして、千葉県警の昨年の山岳遭難事故のデータをもとに、遭難や事故の理由を見てみる。やはり、道迷いが一番多い。現在地の把握がいかに大切かを感じる。意外なのは、高齢者ではなく20から29歳の方が多いということである。年齢を過信するなかれということだろうか。最後に、肝に銘じることとして、山は人間にへつらってくれないことや計画の大切さ、そして基本を守ることなどをあげて頂き、講習は終了した。この講習では、基本が大事であること、帰宅までが登山であるという言葉が印象深かった。松田さん、ありがとうございました。



車場に集合。体操をし、装備の説明をして頂いた。次に簡単な読図を行った。進行方向をコンパスで確認することはどの山でも行いたいと感じた。そして、登山開始。沢沿いの樹林帯に行く。道中見えるフジが美しかった。歩くことしばらく、樹林帯を抜けると突如目の前に広大な景色が広がった。房総キャニオンである。中途半端に採石し、放置されたこの場所はおおよそ日本、いや千葉とは思えぬ光景が広がっていた。しばし休憩をとり、小鋸山に向かう。すると、今度はテーブルマウンテンが現れた。千葉には何でもあるなあ、など思いながら



歩くとは一変、岩場になった。注意しながら登るとすぐに小鋸山の頂に到着。狭いので落ちないように努めた。

続いて、メンバーを二分し、自分は房総キレットから下山することになった。やっぱり千葉には何でもあるなあ。しかし、この房総キレットは中々タフであった。岩場である上に、狭く切れ落ちて



いるために油断すると滑落の危険がある道なのである。焦らないように歩き、キャニオンの奥に到着。キャニオンの最下層を経て、無事合流した。ここで昼食をとり、行きの沢沿いの道を折り返して下山した。



4月23日(日)(晴) 実技 -小鋸山と房総キャニオン-

参加者: 齊藤和紀 小栗山大介 東蒼生

／スタッフ松田宏也 三田博 (5名)

2日目は実技として小鋸山へ。天気も快晴で、登山日和であった。まずは、白狐集落を抜けたウグイス橋手前の駐

第2回初級登山教室

加藤 剛

5月20日(土) 机上「山のマナー、計画の立て方」

参加者: 東蒼生 小栗山大介 加藤剛

／スタッフ今井貴朗 小川和敏 (5名)

簡単な自己紹介の後、登山のマナーとして帰宅するまで安全な登山を意識するといった原則から、千葉山岳会で使用している登山計画書の作成注意点、「コル・ヘッドン」など登山用語について、今井さん作成の分かりやすい図版集を見ながらの登山用具の選び方など、役立つ情報を体系的に勉強させていただきました。

5月21日(日) 晴れ 実技 -富山西尾根から-

参加者: 東蒼生 齊藤和紀 成田和彦 加藤剛

／スタッフ松田宏也 今井貴朗 小川和敏 (7名)

好天に恵まれて、予報よりも暑い1日となりました。スタッフ陣含め全員が内房線岩井駅に集合し登山口へクルマで向かいました。成田さんは今回トライアル参加です。リーダーの松田宏也支部長からルート解説の後、地図コンパスの使い方の復習、今井貴朗さんからは針葉樹・広葉樹などの情報の地図上



での活用方法について解説を受け、体操後に登山開始となりました。

伏姫籠穴を覗いた後の急登のルートは、前日までの雨でぬかるんでいて滑りやすい足元の悪い状況です。ルートの確認方法、尾根に出たところでの地図での確認など実地での復習は大変実践的で大いに勉強になりました。9:30に出発して2時間45分で12:15に北方ピークでランチを兼ねて1時間の休憩。



地元南房総市の現地安全確認が終わっていないため通行禁止となっていますが、前回千葉支部で登山道整備を終えているルートでの下山。整備後の状況を確認しながら約1時間20分で出発地点に到着。恒例の体操後に、無事解散となりました。低山とは言うものの、ロープを頼りに登る急登や岩場。参加者からは内容は初級を超える充実した実技であったとの感想も出ました。リーダー、講師の皆さんのおかげで大変充実した山行となりました。



鎌倉殿と大仏さまと満開の桜

黒住 清美

山行日/天候：3月29日(晴)
参加者：L 松田宏也、坂上光恵、宇津木仁典、長谷川博、齋藤和紀、黒住清美(6名)
タイム：北鎌倉駅 10:10→浄智寺 10:15→葛原岡神社 10:55
→銭洗弁財天 11:20→源氏山公園 11:40→
高德院(大仏) 13:20→鎌倉駅 14:20

北鎌倉駅を出発し、浄智寺の山門前で準備運動をしてから山道に入って葛原岡ハイキングコースを登った。白い花びらがひらりと舞い散るのを見上げると常緑樹の枝葉と交錯して山桜の花が満開、春の日差しを受け輝いて見えた。ウグイスの鳴き声や足元に咲く可憐なスマレの花に癒されつつ進み、鎌倉の縁結び、葛原岡神社へ。赤い糸で結ばれた男石、女石を前にメンバー「もう今さら…」の声。休憩後、急坂を下りて銭洗弁財天へ。ここでは多くの参詣者がお金を洗っ



て願掛けする脇でメンバー「もはやお金ではなく…」の声。急坂を戻って源氏山公園へ。若き源頼朝の銅像に見守られながら昼食とした。

午後は標高93メートルの源氏山から高德院を目指して大仏ハイキングコースをいっきに下った。前日の雨の影響で山道は泥々、滑りやすく難儀したが、視界が開けると谷向こうの山の新緑や霞かかる鎌倉の海の様子が見られ嬉しく励まされた。花見日和に恵まれ大仏様に感謝。大勢の観光客にもまれつつ由比ヶ浜通りを抜け鎌倉駅へ到着。そして小町通りへ入ってからの反省会、これも行程に入っていた!!



雪の赤岳日帰りチャレンジ

上條 誠一郎

山行日/天候：3月31日(晴)
参加者：L 平野直子、上條誠一郎(2名)
タイム：赤岳山荘 6:15→行者小屋 8:15→赤岳 10:10→
地蔵ノ頭 11:45→行者小屋 12:15→赤岳山荘 14:00



赤岳山荘の駐車場に車を停め行動開始、美濃戸の登山口を右に曲がり南沢へ。最初は木陰に氷が少しはっているものの他は夏道と変わらなかった。2000mを超えた辺りから雪と氷のミックスになってきたのでアイゼンをつけ登る。行者小屋に着き冬山装備を準備し、滑落停止動作を確認し赤岳に向かう。文三郎尾根は急斜面を滑落する

ことが無いよう、一步一步を慎重に確実に進めていった。森林限界を超えると前方には赤岳、横岳、硫黄岳、阿弥陀岳後方には歩いてきた南沢や行者小屋の大パノラマが広がっていた。パノラマを堪能しつつ登っていくと、ついに赤岳直下の分岐まで辿りついた。赤岳直下の鎖場の岩と鎖は半分くらい露出していたのでアイゼンを引っ掛けないように慎重に登る。そして10時10分ごろに赤岳(2899m)に登頂。平日だからか他に登山者は硫黄岳から縦走してきたソロの人しかおらず、山頂からの絶景をほぼ独占できた。南峰は狭いので北峰に移動して大休止をとった。

※個人山行

元の予定では文三郎尾根でピストンする予定だったが、想定よりも雪質が安定していたためアイゼン・ピッケルワークの練習も兼ねて地蔵尾根で降りたほうが良いだろうと判断した。地蔵ノ頭に向け



出発し赤岳を後にした。地蔵ノ頭に着き下ってきた道を振り返ってみると赤岳があり自分がついさっきまで山頂にいたことが嘘のように感じるほど雄大であった。

地蔵尾根はピッケル・アイゼンを駆使して安全にかつスムーズに降ることができた。行者小屋につき冬山装備をしまい南沢を下りる。氷のはった道に苦戦

しつつ赤岳山荘に14時ごろ到着。登山を始めた頃から憧れていた積雪期の赤岳にまさか高校生のように登れるとは!いつかは赤岳から硫黄岳の周回もしてみたい。



ミツバ岳 そしてエルドラドへ

三品 京子

山行日(天候) : 3月21日(晴れ)
 参加者 : L 三田博、三田芳江、三品京子
 タイム : 浅瀬付近駐車場 7:10 → ミツバ岳山頂 8:20 →
 大又沢口林道 10:30 → 丹沢エルドラド 12:10 →
 駐車場 14:00

丹沢湖畔から急登を登ること1時間ミツバ岳山頂に着く。山頂一面にミツマタの花が出迎えてくれる。花と富士山を眺めながら一休み、景色を楽しむ。権現山に向かう道を10分ほど歩き登山道からそれ、ヘルメット・ハーネスを装着し踏み跡の無い斜面を下降する。ザレ場の急斜面ではロープを使い何とかヤマメ沢まで降りるが、ホッとする間もなく沢沿いを渡渉しながら進み大又沢林道に出る。



林道を歩き今日の最終目的のエルドラドの登山口と思われる場所を探すも踏み跡は無い。地図を頼りに尾根を登るが足元は崩れやすい。木の根や岩を掴み這い上がると、向かい側の山肌が黄金色で埋め尽くされた景色が飛び込んできた。この斜面からしか見られない景色を見ながら大休止をとり、エルドラドへと向う。尾根伝いに歩きたどり着いたところは、斜面一面がミツマタの花で埋め尽くされ、凄いの一言。下山も道なき道を降り登山口に無事たどり着いた。振り返れば、登山道はスタートの1時間だけで、あとはバリエーションルートとアクティブな一日であった。



● 登山道の整備 ●

房総の山復興プロジェクトの活動も終盤です。

● 3月4日～5日(4日6名、5日12名)

令和元年の台風15号で甚大な被害を受けた房総の山々のなかでも、梨沢から大塚山～保田見峠に至る鎌倉古道では4件の滑落死亡事故が発生している。今回、房総の山復興プロジェクト活動として、梨沢成年部会、CMSCA(千葉県山岳スポーツライミング協会)の皆さんと一緒に鎌倉古道の整備にあたった。



4日: 晴れ CMSCA2名、千葉支部4名

梨沢公民館に集合し出発。大塚山までは1時間程度だが登り始めてすぐに台風15号が半端ではない大暴風であった痕跡が現れてくる。最初

の土砂崩れ箇所巻き道とその尾根伝いの道整備をおこないながら、先に出発し倒木を切っているCMSCAメンバーと合流。

土砂崩れ2か所目は左手にステップ作りとトラロープを張り安全を確保した。

5日: 曇り 梨沢成年部会3名、CMSCA6名、千葉支部3名

今日はメンバーが多い。チェーンソーを使える「山カフェ」のマスターも参加してくれた。昨日の続きであるが、次々に現れる倒木を切っては片付けの繰り返しである。みんなよく働く。倒木に覆われていた「頼朝が通ったという由緒ある鎌倉古道」がみるみるうちに開通していく。



振り向くとなんとも気持ち良い。鎌倉古道がみんなの力で甦った。(松田宏也)

● 3月11日(11名)～12日(7名)

11日: 晴れ CMSCA4名、千葉支部7名
 先週に続いて整備に入る。今日は(以前2/5に房州アルプス登山口から整備に入ったが)未着手の無実山へチェーンソー2台を持参し一気に片付けようという作戦だ。

登山道をふさいだ倒木を切っては片付けの繰り返しである。地獄のぞきを過ぎ無実山に向かうとチェーンソーの出番がいっけに増える。無実山頂上の前後は荒れており道がわかりづらいためピンクテープと標識を設置。これで道迷いの心配はなくなるだろう。



無実山から保田見林道に抜けるには内台ルートと山中ルートの2ルートがあるが、内台ルートで下山。山中ルートは明日入ることにした。下山途中、別荘の方に登山道整備をやっているとの話をすると感激され、冷たいジュース、いちご、チョコレートをいただいた。良いことをするとこういう褒美があるのだなあ〜と、こちらも感激。

12日: 千葉支部5名、強力な助っ人1名

今日は千葉支部5名にチェーンソーの達人「山カフェ」の石丸謙二郎さんも参加。昨日の分岐から山中ルートに入る。200mほどは順調に倒木処理を行ったが、土砂崩れ箇所は通行不能、ルートを探すのが判明せず。左手の急斜面に登り細い尾根道にでるが、前後は倒木だらけ。これ以上進むのは時間もかかることから今日の作業はここで終了、引き返す。山中ルートは未整備の為、誤って入らぬように入口にトラロープを張った。皆さん、お疲れさまでした。

(松田宏也)

真木川大ゴ沢

三田 博

※個人山行



山行日/天候:5月3日(晴れ)

参加者;L三田博、三品京子、三田芳江、宮崎美智代



4月はあまり山に行けなかったもので、GWは足慣らしに滝子山北方の大ゴ沢で沢登り。大月駅からタクシーでハマイバ前の先の桑西林道入り口まで。下部は堰堤が七つ続いて、最後の堰堤の上で沢支度をする。

沢は特に難しいところはないのだが、やたら茶色の苔がぬるぬる滑る。楽しみにしていた20mナメ滝もぬめって

恐いので、右端をそおっと登る。その上の60mのナメ滝歩きを楽しんだ後は、大谷ヶ丸から滝子山に向かう登山道に向けて急斜面を詰め上げる。登山道のありがたみを感じつつ、下山はズミ沢沿いの道を使い笹子駅に向かう。これがかげこう距離が長くて疲れた。桜森林公園の脇を通り市街地に出たところで、ちょうど大月駅行のバスが来たので乗車、駅前にて生ビールで反省会をする。



整備された房州アルプスを歩く

斉藤 和紀

山行日/天候;5月4日(晴)

参加者:L松田宏也、坂上光恵、小川和敏、柳川しげよ、東蒼生、斉藤和紀

タイム:梨沢9:50~鎌倉古道~大塚山10:55~三浦三郎12:00~保田見峠12:25~無実山13:35~房州アルプス登山口14:20~梨沢15:20



今年4月に日本山岳会千葉支部に会友として入会し、初めての本格的な山行の機会を得て今回参加を決断した。

最初に地図を渡され現在

地及び目的地・ルートの確認を行う。方位磁石を渡されたが使い方が分からない、地図とにらめっこ。教えてもらいながら大塚山の方位を確認する。先が思いやられる。標高を確認すると234m、甘く見ていたが山を登り始めると令和元年の台風15号の爪痕である倒木があちこちに散乱し、期せずして3月から4月にかけて山岳会の方々が行った登山道の整備の状況を確認しながらの登山となった。

登山道の整備内容は主に倒木撤去(チェーンソーでの切

断)、足場作り、がけ崩れで消失した登山道の迂回路の整備等である。丁寧に補修された登山道を歩ける事に歩きながら感謝の気持ちでいっぱいになる。印象としては標高は低い房州の山は危険がいっぱいである。狭い登山道と落ちたら最後登れそうにない急な崖、登山道も分かりにくく、土地勘が無いと迷いそうである。



70歳にして初めての本格的な山行。終わってみたら達成感が半端ない。満足感を与えてくれた参加者に感謝申し上げます。



ガイドンス山行

入会間もない人や入会を検討している人のために、日本山岳会や千葉支部の事をよく知ってもらおうという趣旨で「ガイドンス山行」を始めています。第1回目は1月22日に鋸山で行いました。(支部だより61号8頁に掲載)第2回目は千葉県富山で、初級登山教室と兼ねました。今後も、3ヶ月ごとにガイドンス山行を開催する予定です。7月には奥多摩での開催を考えています。既に入会している方も歓迎です。是非、奮って参加いただければと思います。

鹿島槍ヶ岳は五月晴れ

上條 誠一郎

※個人山行

山行日/天候：5月3日（晴）～4日（晴）
 参加者：L 平野直子、上條誠一郎（2名）
 タイム3日：柏原新道登山口 5:50→南尾根 6:20→
 爺ヶ岳南峰 10:00→冷池山荘 11:45→
 布引山 13:20→鹿島槍ヶ岳南峰 14:10→
 布引山 15:20→冷池山荘 16:00
 4日：冷池山荘 5:30→爺ヶ岳北峰 6:30→
 爺ヶ岳中峰 6:50→爺ヶ岳南峰 7:50→
 南尾根 10:40→柏原新道登山口 11:10

島槍へ。なかなかの急登に苦戦しつつ鹿島槍の南峰に到着。鹿島槍からは歩いてきた爺ヶ岳からの稜線、白馬の山々、更には、間近に劔岳を眺めることができた。
 今回は南峰までとし北峰には登らず下山開始。登りは苦戦した急登も下りは順調なペースで下ることができ16時にテント場着。日が暮れるまで時間があるのでのんびり夕食の準備を進める。劔岳の辺りに沈む夕日を眺めながら夕食を食べ19時に就寝。



陽が昇り明るくなり始めた6時頃に行動開始。南尾根への取付きがわからず途中にあった踏み跡を使い南尾根へ。南尾根は森林限界を超えるまでは藪と結氷、初めての藪漕ぎだったこともあり苦戦。森林限界を超えてからは雪とガレ場が続く爺ヶ岳南峰に到着。南峰からは鹿島槍ヶ岳や劔岳、針ノ木岳の後ろに穂高連峰、さらには八ヶ岳や南アルプスのパノラマが広がった。
 計画では冷池テント泊、明日鹿島槍アタックだったが、南峰に想定よりも早く着いたので計画変更し、爺ヶ岳の中峰、北峰はトラバース、本日鹿島槍アタックに切り替えた。冷池にテントを張り荷物をデポして鹿

翌日は星空を撮るため3時半に起きるも、寒さでカメラが動かさず一枚も写真が撮れず…。朝食を食べ日の出を眺めながら撤収し5時半ごろに出発した。テント場には3張りのテントしかなくGWなのに人が少ないなと思っていたら小屋の前は10張りのテント村状態だった。
 テント村を通り過ぎ、昨日は山頂に登らずトラバースした爺ヶ岳の北峰と中峰に向かう。日の出から時間がたっていないため雪が締まっていたので、雪稜の上を歩き北峰、中峰の山頂を踏み南峰に戻ってきた。南峰からの南尾根の下山は藪漕ぎに苦戦しつつ、なんとか柏原新道に合流し11時過ぎに下山した。その後は、扇沢の駅でお土産を買い、高瀬温泉の仙人閣で温泉につかり帰宅した。



♪ こんにちは ♪



初めまして。こんにちは。東 蒼生(ヒガシ アオイ)と申します。年齢は19歳です。

千葉支部では既に登山教室2回に参加。房総Baseにも宿泊しています。房総Base、とても良いです。夜は蛙、朝は鳥の音が聞こえ、心地よい場所です。その場所で様々な方と出会い、お話出来ることは貴重であると感じています。

そもそも自分が山に登り始めたきっかけは…と、言いたいところですが、正直明確なものはありません。しかし、総じて言えることは自然に触れていたい、感じたいということが一つの衝動です。山は自然そのものですから。

登り始めてから2年ほど経ちましたが、未だに日帰りのみです。そろそろ山で一泊したいと思っています。そして、最初こそ単独行でしたが、やはり一人では危険であると感じた場面もあり、一緒に山を登ってくれる仲間を求めて日本山岳会に入りました。日本山岳会の存在は、深田久弥氏の“日本百名山”を読み、知りました。まず、本部に入会。その後、昨年の晩餐会記念懇親山行に参加。そこ



で、千葉支部の方と出会い、誘われて支部に入会し、今に至ります。

今まで登ってきた山でのお気に入り、どの山もそれぞれ素晴らしいですが、一つは黒姫山です。静かな森と、山頂からの景色は忘れられません。その時は、山頂に着くと突如晴れ渡ったこともあり、なお思い出深いです。また、沼津アルプスも良かったです。標高こそ低いものの、壁のような急登と繰り返されるアップダウンにはかなりこたえましたが、それ故の達成感は凄まじかったです。見える海岸線の景色も気持ちの良いものでした。

これから登りたい山は無数にありますが、ブナが好きなので、白神山地を始めとする、ブナの自然林を歩きたいです。ゆくゆくは、何年先か分かりませんが、南アルプス深南部の原始林を歩けたら！と思います。いずれにせよ綺麗な森、自然林や原始林を歩きたいです。

登山経験の少ない素人ではありますが、これからどうぞよろしくお願ひします。

あ の 日 の 山



スマトラ島最高峰ケリンチ山 (3805m活火山) :

—世界一の紅茶エステート、トラそしてイチイ巨木の山—

大澤 雅彦

インドネシアは日本とともに太平洋を取り巻く環太平洋火山帯の一部をなす火山・地震列島である。2004年スマトラ島沖地震はまだ記憶に新しい。スマトラ島西岸に沿って1700 km、火山列の脊梁バリサン山脈のそのほぼ中央に最高峰ケリンチ山 (3805m) は位置する。絶えず噴煙を上げて、火口には夜になれば真っ赤な溶岩湖が見られ、有毒ガスが立ち込めて長居は出来ない。その様子は隣にある休火山トジュ山の火口湖からもよく見える。



ケリンチ山

ケリンチ山には 1979 年と 2015 年に調査で登った。79 年は世界一というカユアロ・ティーエステート (オランダ東インド会社 1925 年設立) のコロニアルスタイルのゲストハウスに滞在。そこには世界最古・最大のカユアロ紅茶工場がある。当時はスマトラ・トラの密度が高く、毎日労働者が何人襲われたというニュースがでた。沖縄で毎日ハブに噛まれた人が何人と新聞に出るのと同じだと思った。夜は宿舎から外出しないよう注意された。山中のキャンプからテントを出て登山道を進むと夜来の雨でぬかるんだ道にくっきりとトラの足跡があり、仕方なくトラが移動するまで茶畑で雑草調査をして待った。



紅茶工場



トラの足跡

2回の調査とも森林限界の3200mにあったはずの山小屋ペサングラハン (ゲストハウスの意) をベースとした。木製の壁などは登山者が薪にしてしまい、鉄の柱が残っているだけ。唯一の水場はここしかないのでテントとブルーシートを張った。未明の2時に起き登りだすと山頂まではスコリア (火砕物) のザレ場が続いていた。



茶園のシンボル

15 年は東麓 1500 m のケルシク・トアの民宿に泊まり、翌日広大な茶園を車で抜け、1700mの登山口から登った。途中見晴らしが効く所には、36 年前に見た同じイチイ科のイチイの大木が立っていて懐かしい。この樹皮は最近ガンの特効薬として注目されている。見覚え



のあるマンサク科の *Exbucklandia populnea* の大木もあり、これらはヒマラヤとほぼ同標高に分布しており、その後の私の垂直分布帯モデルの根拠になった。ケリンチ山はジャンビ州と西スマトラ州の境界にあり、79 年は登山許可を得るためジャカルタから州都ジャンビに飛んだ。州境のケリンチ湖のわきのスンガイペヌーまで低地熱帯林の中を 500 km、自動車でも 10 時間かかった。15 年は西スマトラ州の州都パダンからの方が 300 km と近く道が良いのでパダンから入った。スンガイペヌーから標高 1300m カユアロ・ティーエステートの入口まで 1 時間あまりだ。パダンへの帰路は海岸沿いの道でさらに快適。道々、ツバメの巣を採る巨大な格納庫のような窓がない建物が目立つ。道路脇で大好物のドリアンを売る屋台があると車を止め味わった。道脇の茶店の裏は熱帯多雨林でドリアンを残して周囲は伐採し、地表はきれいに草刈りして、毎朝落ちたドリアンの実を収穫し売っている。パダンのような街中ではドリアンをホテルに持ち込むことは出来なかった。

2回の調査とも森林限界の3200mにあったはずの山小屋ペサングラハン (ゲストハウスの意) をベースとした。木製の壁などは登山者が薪にしてしまい、鉄の柱が残っているだけ。唯一の水場はここしかないのでテントとブルーシートを張った。未明の2時に起き登りだすと山頂まではスコリア (火砕物) のザレ場が続いていた。

※ 大澤先生は、事情により日本山岳会を退会することになりました。長い間、お疲れさまでした。

自然学クラブ巡検

三木 雄三



● 第19回巡検 三舟山・河岸段丘とケスタ地形
2023年5月13日(土) 曇り

参加者：岩尾富士夫、鎌谷繁、黒住清美、斉藤和紀、塩塚生二、高橋琢子、竹内進、羽藤美代子、長谷川博、山口文嗣、三木雄三(L)。

三舟山は、内房線君津駅の南に位置する。「山」とはいうが標高は東京タワーの半分にも満たない138メートル。それでも県が選定した『ちば眺望100景』に選ばれているだけあって見晴らしは抜群。戦国時代には北条氏の陣地が築かれ、地元の里見氏との間で激しい合戦が繰り広げられた。



今回の巡検テーマは「河岸段丘」と「ケスタ地形」。午前10時に君津駅に集合後、直ちに小糸川に向かう。行く手には三舟山、その左に鹿野山がどっしりと構えている。川岸から三舟山を眺めると、手前から奥にかけて段々畑のように土地の段差が分かる。この段差こそが河岸段丘で、長い年月をかけて小糸川の流が川幅を刻み、土地の隆起で段々になった。崖の部分は「段丘崖」、その上に広がる平らな平地を「断層面」と言う。

歩いている山道が本当に河岸段丘ならば、上流から流れた痕跡があるはずで、我々は目を凝らして詳しく観察。運良く山肌の表面が崩れた場所があり、そこで小石が積った「礫層」を発見した=写真=。ふもとの段々は3~4段あり、関東ロームに覆われた面は開拓され、畑として利用されてきた。

この辺りから鹿野山にかけては山の斜面が「緩い」「急」を交互に繰り返す。硬い地層と軟らかい地層が削られ「ケスタ地形」と呼ばれる。

ウグイスやホトトギスが共演する山頂からの眺めは絶景=写真=。この4月に会友になった斉藤和紀さんは「三舟山は小高い丘と思っていたが、成り立ちを知り自然に対する見方が変わった」と話していた。



幻想の楽園・大台ヶ原そして大杉谷 今井 貴朗

※個人山行

山行日/天候 5月26~29日 曇り時々晴れ
参加者：CL 三品京子、SL 小川和敏、平出正美、三田芳江、宮崎美千代、今井貴朗(6名)
コース；2日目：大台ヶ原駐車場→大蛇ヶ原→日出ヶ岳→シャクナゲ平→栗谷小屋(泊)
3日目：栗谷小屋→堂倉滝→堂倉吊橋→崩壊地→七つ釜滝→栗谷小屋→日出ヶ岳→大台ヶ原駐車場(車)→天川村(泊)

早朝、成田空港に集合し関空へ。レンタカーにて山奥の蕎麦屋で昼食。珍しい十割蕎麦のコースを堪能し大台ヶ原の心・湯治館にて宿泊、明日に備える。道中の林道から霧が立ち込め気温9℃と寒く、館内はストーブが炊かれていた。



2日目早朝、時々霧が流れる中、大蛇ヶ原を目指して出発。登山道はしつとりと濡れ、下りは滑り易くも所々のツツジの華に魅惑されながら大蛇ヶ原に到着。霧の中に浮かぶ山並み、

木々の美しさに心奪われ、高度浮遊感に遊び至福の時間を過ごす。感動の後は緑の絨毯の笹原を抜け、最高峰の日出ヶ岳で集合写真、やっとの遠望。ここからがひたすら下りとなるが満開の石楠花に心の中までピンクに染まり、歩くのが楽しくて仕方ない。最後の急坂を下れば今日の

宿泊地、栗谷小屋。ノリの良い小屋番兄さんとの漫才？もそこそこに風呂で汗を流し、貸切の食堂で夕食兼宴会に突入。

3日目はアクティブ女性陣とのんびり男性陣に別れ、女性陣は七つ釜滝を目指し、男性陣は堂倉滝を目指す。同時に小屋を出たのも束の間、へなちょこ男性陣はどんどん置いて行かれる(笑)。シャクナゲ平で会おうを合言葉に女性陣が去った後、黙々と登山道を下り堂倉滝に到着、素晴らしい！姿と言ひ水量と言ひ、これぞ日本の名瀑感をたっぷり堪能する。更に見事な吊橋を2つ渡り、滑る淵を歩き詰めた処でタイムアウト、引返して約束通りシャクナゲ平で猛者の女性陣(失礼(笑))と合流、日出ヶ岳を経由して大台ヶ原駐車場に戻る。初日と違って暖かい陽ざしの中、天川村の民宿へ行きビールとフォンデュでまたまた宴会。



4日目最終日は高野山の予定が途中通行止めにてタイムアウト、おとなしく関空へ戻りビューンと成田へ。皆さま、楽しい山旅をありがとう！

思ったよりきつかった太郎山 宮崎 美智代

山行日/天候； 6/3 雨→晴れ 6/4 晴れ
 参加者；CL 小川和敏、SL 三品京子、柳川しげよ、
 三田芳江、平出正美、斉藤和紀、
 羽藤美代子 宮崎美智代（8名）

タイム；6/3 移動日
 6/4 梵字飯場跡駐車場8:55→ 新薙登山口9:42→
 太郎山 12:06 着 13:20 発→新薙登山口 15:58
 → 梵字飯場跡駐車場 16:30

1 日目 心配していた台風と前線の影響で集合時間は大雨の予報の為、4時間ほど出発を遅らせる。都内を抜ける頃には雨も上がり晴れ間が出てきた。1 日目は移動日となり少々観光をプラスして宿へ着。



い1時間ほどの林道歩き。そして、登山口から急登が始ま

2 日目 昨日とは打って変わって快晴の中、梵字飯場跡駐車場へ。十数台しか駐車スペースがなく着いたときにはほぼ満車だったがギリギリ2台、何とか駐車した。登山準備をし太郎山へ。新薙登山口までは少々長い



った。30分ほど上ると思いがけず満開のシャクナゲの群落が私たちを迎えてくれた。しばらくシャクナゲの花のトンネルの中を進み、元気をもらいつつ崩落箇所やロープ場、ガレ場のトラバースを無事に登り、旧噴火口のお花畑へとたどり着いた。頂上まではもう一踏ん張りのはずが、今までの急登での疲れが出てこの15分が辛かった。

日光山群の中程にそびえる太郎山は、男体山や日光白根、女峰山などを見渡せる絶好の眺望だった。太郎山の頂上での景色と昼食は今までになく有り難かった。少し長い休憩をとり、また来た道に注意して下った。無事下山後、リーダーはじめ皆、今回のレベルはBではなくCレベルだったと確認した。



ウォーキングクラブ報告 宇津木 仁典

● 「茂原地区」及び「白子地区」15km ウォーク

NO.13 3月19日(日)晴れ
 参加者：宇津木仁典、塩塚生二、黒住清美、平出正美、斉藤和紀(5名)

計画実施日(18日)は11名参加予定者であったが、降雨予報であったので翌日に順延したところ、町内会総会、消防訓練また仕事等が生じて参加できない連絡を多くの方から頂いた。会員のなかには、地域、職場及び家庭？では要職を抱えている方が多くいることを認識した。それでも、職場及び家庭を犠牲にした5名が茂原駅に集まった。

ウォークは9:30スタートして、茂原市内の田園通り⇒白子町(天然記念物「まきの木」)⇒蘭栽培温室施設⇒白子海岸⇒バス乗車(16:40)ゴール解散であった。

茂原駅スタートして約7.5km歩行して天然記念物「まきの木」に到着。樹齢800年、根回り2,28m、樹高11m、幹回り2,28m記されていた。店内食卓には空席が無かったので、この「まきの木」前の特別席で昼食をした。この後のウォーク主要立ち寄り地は「蘭栽培温室施設」である。ウォーキング仲間の平出氏の取り計らいで特別立ち寄り地に設定した。この施設管理者は、毎年「世界ラン展」に出品して、本年も5鉢が入賞している。趣味で始めたラン栽培は30年余となり、栽培温室5棟内にはラン花が咲き乱れていた。質問には笑顔を絶やさず熱心な説明をいただいた。沢山な各種のランの花々を観てこの施設を離れ、余韻を残して歩行し九十九里白子海岸に向かった。海岸には引き潮時であり貝殻が多く散らばり、先には白波が押しよせていた。この地も地震発生時の津波は怖い！！



● 目黒川沿いの桜を観ながら歴史の寺を巡って12km ウォーク

NO.14 4月2日(月)曇り
 参加者：宇津木仁典、塩塚生二、岩尾富士夫、梶田義弘、平出正美、黒住清美、竹園敏明、長谷川博、斉藤和紀(9名)

今年のさくら花の開花は、かなり早かった！散るのも早いだろうと予測した。そこで予定した計画実施日を前倒して、更に実施地区を県内から都内に変更して実施した。「花見と団子」は目的外であり、ウォーキングが目的であったので、観光スポットから離れたJR山手線大崎駅前スタート⇒JR山手線恵比寿駅間(約12km)をウォーキングコースに選定した。目黒川



日本山岳会千葉支部

沿い 1000 本もの桜並木で全国最も上位のお花見スポットでは、満開に咲き乱れた花々、川にいっぱい散花(いかだ船)を眺め満喫しながら、大勢の花見客でにぎわっていたなかをヨタヨタ歩いた。また目黒川から僅かに離れた静かな地では、古寺、大寺が多く歴史を身近に感じコースも巡り歩いた。当初立ち寄った大円寺では、境内に並ぶ五百羅漢の石像には寺が火元になりこの地の犠牲者の供養のために作られたと説明されていた。

主な立ち寄り地は、JR 山手線大崎駅前スタート 10:20⇒目黒川沿い花見コースを目黒駅方面に向かい約 4,5km⇒古寺、大寺(大円寺、五百羅漢寺、目黒不動⇒青木昆陽(甘藷先生)墓地⇒寄生虫会館⇒大島神社)約 4,0km ⇒再び目黒川沿いの花見コース目黒方面へ 4,0km⇒JR 恵比寿駅ゴール 15:10(解散)。



● 夢と魔法の町になった「浦安」12km ウォーク

NO.15 5月21日(日)晴れ

参加者: 宇津木仁典、塩塚生二、岩尾富士夫、吉野聰、平出正美、黒住清美、國宗文、長谷川博、坂上光恵(9名)

ウォーキングスタート時刻は10:00。コースは JR 舞浜駅前⇒テーマパーク外周⇒中央公園(浦安富士)「昼食」⇒浦安市役所前通り⇒浦安市郷土博物館⇒境川沿い⇒豊受神社⇒フラワー通り⇒旧大塚家住宅⇒旧宇田川家住宅⇒清滝神社⇒焼浜越後屋前⇒JR 東西線・浦安駅⇒ゴール 11,5km であった。

ウォーキングは、JR 舞浜駅前からテーマパーク外周に向かいスタートした。テーマパーク外周約 5km は、テーマパークの巨大さがみえ、また周辺には施設、ホテル、海側には航海船とスカイツリータワーと立ち並ぶタワーマンションが遠望でき気持ち良い有酸素運動であった。この外周から外れて最初の立ち寄り地は、人口的に造られた中央公園内の低山?であった。通称「浦安富士」は標高わずか 15m であるが、土はダンプカー 13000 台の土を運び造られ、当時は街の埋め立て変貌と海岸が眺望できたという。人間は高いところが好きなことは理解できて、造成の山も納得できる。つぎの市役所通りは、車線上下線の高さが 1m ほど違って「段差道路」であった。高いのは海側であって、海側からの災害に備えての埋め立て地であった。この埋め立て地により浦安町は 15 年で 4 倍にひろがり、夢の漁師町が夢のマイホーム町になった。今年 4 月にリニューアルオープンした浦安市郷土博物館では、漁師町の歴史から海浜都市として躍進した浦安市について、沢山なことを学んだ。

ウォーキングコースは後半となって、興味ある境川沿いの漁師町の面影をみながらのウォーキングでは、昭和 40 年頃にはなんと 2100 艘もの船が係留され、浦安は魚貝類の産地で「夢と魔法の漁師町」であったが、今は人通りもなく閑散な通路であった。この道路沿いに漁師の民家「旧大塚住宅」と商家の民家「旧宇田川住宅」は立派な造りで、市文化財住宅として保存されていた。浦安駅前通りに出ると食しながら歩く若者が幾人かいた。焼き鳥ではなく焼き蛤であり、近くに焼き蛤店があったので小さな蛤 4 枚串刺料金は 180 円也、高値だが口元へ、土産にも購入した仲間もいた。

巨大テーマパークは全国的にも有名な浦安。漁師町が栄えた素顔を見たくてウォーキング仲間と歩いた。初めて遠方から参加した坂上さんからは「また機会がありましたら参加させて頂きたいと思います。皆で楽しく歩いて良かったです。」とメールが届いた。



支部山行の予定

- 山行の心得 - リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。

「連れて行ってもらう」ではなく、自主的な意識を持ち参加してください。

リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山城、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来て下さい。また、山行に見合った登山保険には必ず入って来て下さい。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すこととなります。日頃の自主トレーニングも是非行なうようにして下さい。

- 山行の申込み

申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。
また山岳保険には必ず加入してきてください。

①氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号④緊急連絡先氏名(続柄)、緊急連絡先電話番号

※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。

山行は定員を設けています。また、技術・体力不足、初参加で力量不明の場合はお断りすることもあります。

コロナ対策：密を避け、山小屋や休憩所等ではマスク着用や消毒など決められたルールに従うようにしましょう。



日本山岳会千葉支部

リーダーの連絡先	
宇津木仁典	紙面に掲載
松田宏也	
三木雄三	
三田博	
三田芳江	
藤木玄三六	
小川和敏	
三品京子	
今井貴朗	
宮崎美智代	

《難度》

- W ウォーキング
 A 整備され歩行2～3時間
 B 歩行5時間前後
 C 歩行7時間前後、一部岩あり体力要
 D 強い体力、岩技術要
 E 高い適応能力要、危険度大



(難度はJAC日本300名山を参考。岩・沢及び積雪期は難度アップとする。)

個人山行も計画書提出を 送信先 ; cib@jac.or.jp

山 行 の 予 定 (7月～12月)

日程	山 名	難 度	備 考	リーダー	締切
7月9日(日)	奥多摩(ガイドンス山行)	B	入会希望者と入会2年目までの人優先	三田	
7月22日(土)	富士山昔道	B	馬返しから吉田口五合目まで	三品	6月29日(木)
7月22日(土)	登山教室④机上	教	山の天気	松田・山本	7月13日(木)
7月23日(日)	登山教室④実技	教	奥多摩	松田・山本	7月13日(木)
7月29日(土)	鹿俣川スッカン沢・桜沢	C	日帰りで沢登り、山の駅たかはら駐車	三田	7月20日(木)
8月5日(土)	富士山大沢崩れ	B	5合目の不思議	三木	7月29日(土)
8月11日(金)	山の日ビールパーティー		16ページに詳細記載		
8月18日(金)～19日	和名倉山	C	テント泊で奥秩父の二百名山へ	小川	7月20日(木)
8月22日(火)	弘法山	A	公益：晴香園山行	三木・香高	
9月2日(土)	登山教室⑤机上	教	山の病気と救急法	三田・三品	8月27日(日)
9月3日(日)	登山教室⑤実技	教	大菩薩嶺	三田・三品	8月27日(日)
9月8日(金)～9日	焼岳	B	噴火状況が納まっていることが条件	小川	8月10日(木)
9月16日(土)	大岳山	C	御岳から奥多摩を日帰り縦走	今井	9月5日(火)
9月23日(土)～24日	全国支部懇談会(群馬)				
9月23日(土)	大原地区ウォーキング	W	裸祭りと黒潮の潮騒の道を歩く	宇津木	9月17日(日)

日本山岳会千葉支部

日程	山名	難度	備考	リーダー	締切
9月30日(土)～1日	登山教室⑥実技のみ	教	山で泊まる、食糧計画(山小屋泊)	松田・三田	9月1日(金)
10月13日(金)～14日	谷川岳・一ノ倉沢	B	自然学:絶壁と湯檜曾対岸の地形を巡検、前泊	三木	9月16日(土)
10月14日(土)	金峰山	C	信仰の山、五丈岩を目指して	今井	10月1日(日)
10月20日(金)～23日	信越トレイル	B	紅葉時期1泊、2泊可(民宿泊)	松田	10月1日(日)
10月21日(土)	六ツ石山	B	奥多摩三大急登	小川	10月10日(火)
10月22日(日)	景信山(ガイダンス山行)	B	入会希望者と入会2年目までの人優先	三田	
10月27日(金)～28日	二ツ箭山と背戸岨廊	C	福島・夏井川溪谷でテント泊	三田	10月1日(日)
10月28日(土)	都内下町ウォーキング	W	スカイツリー周辺と浅草を歩く	宇津木	10月22日(日)
11月3日(金)～4日	4支部懇談会(栃木支部)				
11月10日(金)～11日	高原山	B	日光に泊、矢板市の最高点へ	小川	10月10日(火)
11月11日(土)	矢倉岳	B	どでかい富士を見る。足柄の山	松田	10月31日(火)
11月11日(土)	晴香園山行	B	11/11または11/24	三木・香高	
11月12日(日)	檜洞丸	C	西丹沢の名山、晩秋の静かな山	今井	11月4日(土)
11月12日(日)	勝浦地区ウォーキング	W	荒磯のみちを歩く	宇津木	11月5日(日)
11月18日(土)	生瀬富士	C	紅葉の茨城ジャングル(車使用)	三田芳	10月28日(土)
11月23日(木)	房総の山復興PJハイク		3団体合同で懇親ハイキング		
11月25日(土)	鎌倉アルプス	B	紅葉の鎌倉	松田	11月17日(金)
12月2日(土)	日本山岳会年次晩餐会				
12月3日(日)	晩餐会記念ハイキング				
12月9日(土)～10日	登山道整備と忘年会		房総Base泊	松田	12月1日(金)
12月15日(金)～16日	浜石岳	A	沼津前泊、富士を眺めつつ周回	小川	11月20日(月)
12月16日(土)	成田地区ウォーキング	W	印旛沼と甚平渡し周辺を歩く	宇津木	12月9日(土)
12月27日(水)～29日	北八ヶ岳	D	恒例のしらびそ小屋泊予定	松田	12月1日(金)
1月28日(日)	川崎大師参拝	W	川崎大師駅周辺を歩く	宇津木	1月21日(日)
1月28日(日)	県民ハイク(CMSCA)				
2月17日(土)～18日	TOZAN Fes(CMSCA)				
2月18日(日)	船橋アンデルセン周辺	W	アンデルセン公園と周辺を歩く	宇津木	2月11日(日)

※ W;ウォーキングクラブの予定が変更になった場合はメンバーに事前連絡します。
メンバー登録はリーダー宇津木さんにメールしてください。

お知らせ 《事務局から》

●支部年会費の納入お願い

滞納している会員・会友の方が散見されます。支部の運営にとって大切な原資です。是非、納入下さい。
以下がゆうちょ銀行の送金口座です。

記号番号で送金の場合：00270-8-105649

店名で送金の場合：ゆうちょ銀行 029 店 105649

加入者名 日本山岳会千葉支部

●2023 年度役員分担

今年度の役員の役職と担当は下記の通り決まりました。

◇執行部

松田宏也（支部長）、三田博（支部長代行・事務局長・山行委員長・沢登り同好会）、小川和敏（遭難対策・広報委員長・山行）、三品京子（会計/事務局・山行）、山口文嗣（古道 PT リーダー）、藤木玄三六（山行）、香高真奈美（公益）、三田芳江（山行）

◇監事

甘楽敦夫（監事）

◇協力委員

三木雄三（公益・自然学クラブ）、上村紀子（山行）、今井貴朗（山行）、宇津木仁典（ウォーキングクラブ）、宮崎美智代（山行）、中田彩（公益）

※山本哲夫（副支部長・山行・技術遭難対策）、吉永英明（顧問）、能美勝博（監事）の 3 氏は退任されました。お疲れ様でした。

●山の日ビールパーティー開催のお知らせ

日時：8 月 11 日（金・祝）15：00～17：00

場所：JR 総武線新検見川駅前 「桂林餃子新検見川北口店」 （TEL043 301 2068）

会費：4,000 円

近くに系列店がありますが、JR 駅改札口から 1 分、ファミリーマート向かいの店の方です。お間違いなく！
（幹事：香高、三品、三田芳）

申し込み：事務局・三田まで

●役員会報告

○3 月報告 3 月 22 日（水）リモート（松田、三田、山口、宇津木、三品、山本、甘楽）

◇山行・行事報告 3/4 房の大山、3/4、3/11 登山道整備、3/17～18 妙義山、3/19 茂原 W、3/21 ミツバ岳、3/18～19 指導者講習

◇山行・行事予定 4/2 登山道整備、Base 清掃、生瀬富士、中倉山ほか

◇報告・検討事項 CMSCA 加盟の件、晴香園ハイク再開の件、登山教室、支部総会について、支部だより 61 号の発行について、入退会者報告

○4 月報告 4 月 19 日（水）リモート（松田、三田、山口、小川、上村、三品、山本、甘楽）

◇山行・行事報告 3/29 鎌倉アルプス、3/31 赤岳（個人山行）、Base 大掃除、4/2 登山道整備、4/2 目黒川 W

◇山行・行事予定 登山教室、三舟山、鎌倉沢、立山ほか

◇報告・検討事項 登山教室、支部総会、年度会計報告、支部特別事業、古道調査、入退会者報告

○5 月報告 5 月 24 日（水）リモート（松田、三田、小川、三品、甘楽、上村、香高、中田）

◇山行・行事報告 4/22～23 登山教室、5/13 三舟山、5/18～20 立山、5/20～21 登山教室、5/21 浦安 W

◇山行・行事予定 太郎山、市原 W、登山教室、浅草岳ほか

◇報告・検討事項 役員役割分担、登山教室、支部だより、ビールパーティー、入退会者報告ほか

●会員・会友の動向

《入会》 AK さん（申請中）会友から

TM さん（申請中）市原市

《退会》 MO さん（11153）YK さん（会友）、MY 子さん（会友）、MK さん（会友）

EH さん（会友）



編集後記；4月に、薩摩硫黄島へ、5月に沖縄本島（やんばる）に行ってきました。薩摩硫黄島では東温泉という野天風呂に感動し、やんばるでは野生のヤンバルクイナの個体との出会いにうれしいひと時をもらいました。いずれも ANA の確か3日間限定発売の格安スーパーバリューをゲットしての旅でした。薩摩硫黄島では稲村岳、沖縄本島では与那覇岳、名護岳、嘉津宇岳に登りました。亜熱帯地方独特の登山道を満喫しました。津田沼のヨシキスポーツさんにはSAC教室会場の提供ほか、千葉支部として大変お世話になっています。山用品を購入するときは是非ご利用して頂きたいと思います。会員になると割引があります。（小川和敏）